

弘大『キャリア@通信』 vol.006

弘前大学学生就職支援センター

＜Voice①＞『自分で課題を見つけてチャレンジしたい！』

青森県農業共済組合連合会（NOSA | 青森）
三上 将司さん（平成 22 年 農学生命科学部卒）

＜Voice②＞『“就職”は、入ってからがスタートです！』

弘前市 市民文化スポーツ部 市民協働政策課
水口 真由美さん（平成 26 年 人文学部卒）

＜Voice③＞『ゴールにたどり着くまでの道筋を発見する！』

サクサシステムエンジニアリング株式会社
伊橋 真吾さん（平成 22 年 理工学部卒）



●コラム『地方消滅？』

～人口減少社会～何を考えるべきなのか

●就職活動“ミニ講座”

キャリアカウンセラーの先生方が企画・開催

●地（知）の拠点 大学COC事業

『青森ブランドの価値を創る地域人財の育成』

弘前大学は文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」に採択されました。

●information

大学主催『合同企業説明会』 / 『合同病院説明会』
青森企業バス見学会 / 仙台・東京・北海道

キャリア@通信 Voice①
自分で課題を見つけて
チャレンジしたい!

青森県農業共済組合連合会
(NOSAI 青森)
事業部 果樹課
みかみ まさし
三上 将司さん
(平成22年農学生命科学部卒27歳)



2年生の頃には毎週1回金曜日に、長靴と作業服に着替え、農生のバスに乗って藤崎や金木の農場に実習で行っていました。農生のバスが引退したと聞いて残念です。3年生になって果樹の研究室に入りました。頑張った事は「研究」ですね。卒業ギリギリまでやっていました。“りんごの蔓割れ”を研究していました。蔓割れをすると味は変わりませんが、そこから腐ったり商品価値が下がります。自分でテーマを考えて研究しました。実は私の実家もりんご農家なので、りんごに関わって仕事ができるのが嬉しいです。学生の頃も忙しく休みに実家を手伝っていました。

自分で課題を見つけて
チャレンジしたい!
と思っています。

- 蔓割れは何で起こるのですか?
いくつかの要因は指摘されていますが、私も最後はそこが曖昧でした。自分で課題を見つけてチャレンジしたと思っています。やって良かったです。昔から調べることが好きでした。学生の頃も、分からないことをよく調べていました。
- 仕事でも活かされていますか?
仕事で数字を扱いますが、初めの

頃、「この数字は何でこうなるのだろう」と電卓を叩いていました。自分で「何だろう」と思うことが、自分の糧にもなると思います。

補償の仕事ですが、災害が無いのが一番良いんです。

- 就職活動は農業関係と決めて活動していたのですか?
大学の学生就職支援センターで農業関係の仕事を調べました。農業に絞って履歴書を書いて就職活動をしていました。自分にとって農業は身近な仕事でしたが、学部の中で農業に関する仕事に就けなかった友人もいます。同期に同じ弘大農生出身者がいます。お互いに話をしたり教え合ったりできたので良かったですね。今担当している仕事は災害の補償ですが、災害が無いのが一番良いんです。私が保育所に通っている頃ですが、平成3年に台風19号があって、実家も農業共済に加入していて助かったと聞いています。農家さんのために働けて嬉しいです。

勉強も遊びも“メリハリをつけること”が大切です。

- 弘大生の後輩に何かメッセージをお願いします。
仕事をしてからでも同じですが「メリハリをつけること」が大切だと思います。勉強する時は勉強し、遊ぶ時は遊ぶことです。また、分からない事があっても、分らないままで終わらせないことです。その時、分らなくても、調べていけば必ず後で役立つと思います。私は研究テーマが遅れて卒業旅行に行けませんでした。思い出になる旅行をしたかったですね。
- 本日は有り難うございました。
取材・インタビュー
今野 琢也(人文学部2年)
松谷 和恵(教育学部2年)



りんごやぶどうの果樹共済を担当している三上さん。ポスターはりんご共済。

台風で“りんご”が落果する被害等を補償しています。

●現在どのようなお仕事をされているか教えてください。
農家が災害を受けたとき、その災害を補償して、農業経営の安定をはかる共済制度を扱っています。りんごなどの果樹や米などの農作物、牛や馬や豚の家畜、ビニールハウスなどの園芸施設や建物、農機具の分野があります。青森県では、りんごやぶどうの果樹が多く、私はその事務仕事を担当しています。

あります。落果した数を数えたり、りんごの玉の状況を見て減収となる被害の算出をします。今、県りんご結果樹面積の39.8%にご加入いただいています。青森県のりんごについては、他県の果樹より比較的高い加入率です。農家さんの高齢化もあり、共済の加入がなく、もし何か大きな被害があったとき、農家を辞めてしまうケースもあります。最近では台風の他、ひょうや水害などの被害が発生していて、全ての災害に備える農家さんが増えてきています。

家さんは忙しく、仕事の妨げにならないように早く園地へ赴きます。職業柄いつも気象や天気にも気にしています。最初は分からないことも多く不安でしたが、資料を見ながら自分でできるところは自分でやり、分からないところは聞いて、仕事をしました。

長靴と作業服で毎週、農生のバスに乗っていました。

●弘前大学では、どのような学生生活でしたか?

できる事は自分でやり、
分からない事は聞きます。

●仕事をして大変だったことはありましたか?
仕事をしてはじめて思ったことは扱う金額の事です。大学生の時の貯金などとは金額が違いました。事務を担当して1%でも異なれば大きな金額の違いになりますので注意を払います。現地調査も、収穫期になれば農



青森市にある青森県農業共済会館。農業共済組合連合会の事務所があります。

コラム 「地方消滅?」
~人口減少社会~何を考えるべきなのか

このコラムではキャリア論のご紹介をしていきます。今回は『地方消滅~東京一極集中が招く人口減少』を取り上げて考えてみます。編著者の増田寛也氏は若手泉知事、総務大臣を歴任した後、2011年より日本創成会議の座長を務めています。本書はひとつの試みとして、人口の再生産力を中心的に担う「20~39歳の女性人口」に着目しています。青森県では25年後の2040年“若年女性人口変化率”が、弘前市で-54.4%、青森市で-57.4%、八戸市で-54.6%と算出しています。新幹線の新駅「奥津軽いまべつ駅」が開業となる今別町は-88.2%と全国の中でも厳しい値です。「人口減少」について、根拠なき「楽観論」は危険である一方、「悲観論」は益にならず、政治、行政、住民が事実をきちんと認識することが大切であるとしています。

地域格差と「人口移動」
●過去に三度にわたって地方圏から大都市圏へ大量に人口が移動しています。
第1期：1960~1970年の高度成長期。地方の若者が集団就職。第2期：1980~1993年のバブル経済期を含む時期。経済力の地域間格差が拡大。円高で製造業は苦境。第3期：2000年以降の時期。地方の経済や雇用が悪化。若年層を中心に地方から東京圏への人口流入。
第1期2期は、大都市圏の「雇用吸収力の増大」に由来するが、第3期は、地方の経済・雇用力の低下が原因としています。地方には職がなく、「仕方なく」流出を余議なくされていると説明されています。

~地域が活きる6つのモデル~
本書では、若年女性人口増加率上位の市区町村の事例に着目し、次の6つのモデルを紹介しています。
●産業誘致型：工場や大規模商業施設などを誘致する
●ベッドタウン型：住環境整備を重点的に進め、定住人口を増加させる
●学園都市型：大学や専門学校等を集積させ、若年人口の継続的流入を実現
●コンパクトシティ型：従来の街の機能を中心に集約し、効率化を目指す
●公共財主導型：国家プロジェクト規模の大規模施設の立地を契機にする
●産業開発型：地域の特徴ある資源を活かした、産業振興を実現する
●地方は人口減少し、大都市はいま以上に人口集中が進みます。地方の人口が減少すれば、いずれ東京への人口流入もなくなり、東京も衰退します。

学生就職支援センター
副センター長 小磯重隆



書籍「地方消滅」。増刷された赤い装丁が印象的。地方創生について考えたい。

キャリア@通信 Voice②
**“就職”は、入ってからが
 スタートです！**

弘前市 市民文化スポーツ部
 市民協働政策課
 市民参画センター
 みずぐち まゆみ
水口 真由美さん
 (平成26年 人文学部卒 23歳)



**市民の方々と関わる色々な
 仕事をしています。**

●現在どのようなお仕事をされているか教えてください。

市民文化スポーツ部は3つの課に分かれていて、「市民課」と「文化スポーツ振興課」もうひとつは私のいる「市民協働政策課」です。私の課では、個人市民税の1%相当を財源にして、市民の皆さんが自ら実践するまちづくりや地域づくりを支援する「弘前市市民参加型まちづくり1%システム」や「町会組織」の促進、「街灯（防犯灯）」のLED化や弘前市内の交流センターに関することや「市民生活センター」での相談窓口なども担当しています。最近では、私は「文化スポーツ振興課」が担当した、「NHKのど自慢」の運営補助もしました。

●市民参画センターでは、どのような事をされているのですか。

市民の方々と関わって色々なことを行います。男女共同参画の推進やボランティアの支援の他、ふれあいホールやグループ活動室を利用していただいて学習活動、交流活動、情

報収集の場を提供しています。2月には「市民ボランティア交流まつり」というイベントをヒロロ3階で開催しました。弘大ボランティアセンターの学生さんたちの活動も展示されました。たくさんの団体さんの展示や音楽の発表、作成したものの販売もしました。パンの販売もありましたよ。

**男女共同参画の推進に向け
 私も頑張りたいと思います。**

●どのような職場なのですか。社会人1年目は大変ですか？

仕事で男女共同参画を推進していますが、私も頑張りたいと思っています。市の一般行政職のうち、課長級の女性職員は5名で、そのひとりが私の上司です。周りには、恵まれているよとよく言われます。センターをご利用いただく団体の中でも、多くの女性が活躍しています。市役所の庁舎から市民参画センターは離れていますが、決裁の印をいただきに庁舎によく行きます。仕事の内容も色々な課の方々と関

係しているので書類も届けに行きます。1年目の新人ですから顔を覚えてもらえるようごあいさつします（もちろん、これから先もずっとごあいさつしますよ）。市役所には野球部やサッカー部など色々な部活があるのですが、私もサッカー部のマネージャーをしています。その関係で、市役所も携わっている「ファッション甲子園」のお手伝いをしました。ファッションショーのモデルをしましたが、オーデションもあったんですよ（一応合格?のようでしたが…）。10cm以上もある靴を履いて、何度もリハーサルして大変でしたが良い経験をさせていただきました。



土手町から弘前城への道の途中に、勤務する『市民参画センター』があります。

**地元で働きたいと思い、
 公務員を目指していました。**

●弘前大学では、どのような学生生活でしたか。

早起きではできなかったですね。経済学ゼミには色々な学生がいたので、性格の違いもあって楽しかったです。3年生の時はとても忙しかったです。県庁の「学生発未来への挑戦プロジェクト」で自分達の研究を発表しました。弘前市も“学生による地域づくり活動”に注目しています。市と学生さんと連携した事業も増えています。

アルバイト先の居酒屋は「マニュアル」が無かったので、自分で考えて接客をしていました。遊びを企画するのも好きでした。卒業論文を提出した翌日には卒業旅行でグアムにも行きました。

●就職や進路をどのように考えていたのですか。

地元で働きたいと思っていました。公務に関わる仕事に絞って、公務員講座も受講していましたが、欠席も多かったです（笑）。面接では、副市長の前で新しい事業提案を1分でプレゼンする課題がありました。色々考えて「子育て支援」について話しました。しかし、プレゼンに対しての質問はなかったです。学生の頃か

ら、男性も女性もワークライフバランスを保ち、活躍できる社会を望んでいました。今、市民参画センターでも男女共同参画の意識定着のためセミナーをたくさん開催しています。若い方にもぜひ参加してもらいたいです。

**ひとり暮らしですが犬を
 飼っています。
 掃除洗濯もします。**

●休日などは何をしていますか。

実家も近いのですが、ひとり暮らしをはじめました。小さい頃から夢だった犬を飼っています。動物愛護センターから譲り受けたラブラドルの雑種で大きな犬です。犬を飼って自分以外のことに責任を持つようになりました。近所には愛犬を連れてた人も多く、私の犬はおじさんが大好きで近寄って行くので、年配の方と仲良くなります。社会人になってひとり暮らしを始めるのは、大変なことばかりです。学生の時にひとり暮らしを始めておいた方が良かったと感じました。早起きも大変ですし、ストーブの灯油を運ぶのも重たいです。時間がある時に掃除洗濯もしています。

**何でも良いので“何か”に
 熱中してもらいたいです。**

●弘大生の後輩に何かメッセージをお願いします。

何かに熱中してもらいたいです。何でも良いと思いますよ。大学の講義だけが大学生活ではないので、自分で熱中できる何かを見つけてください。就職も、内定することより、入ってからがスタートです。すぐ辞めてしまう人もいるし、自分の希望の企業でなくても活き活き働いている人もいます。大学も就職も、入ってからどう活動するかが大切だと思います。

●本日は有り難うございました。

取材・インタビュー
 今野 琢也（人文学部2年）



2階にはふれあいホールや情報コーナー、3階はグループ活動室等があります。

文部科学省
地(知)の拠点

大学COC事業「青森ブランドの価値を創る地域人財の育成」

弘前大学は文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」に採択されました。地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を文部科学省が支援する事業です。「地域再生の核となる大学づくり」を目指しています。本事業には青森県知事、弘前市長にもご賛同・ご参画いただけることとなりました。問題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としています。

＜青森ブランドの価値を創る地域人財の育成＞

1. グローバルマインドを持ち、地域に対する愛着、地域の創造を目指す意欲を持った人財。
2. 複雑化する地域課題に文理の枠を越えて、総合的にアプローチできる文理融合型の人財。
3. 獲得した専門知を活用して、地域の課題解決を主導できる人財。

人口減少等の課題を克服し、「青森ブランド」価値の創造を目指す青森県、「笑顔ひろさき」プロジェクトを進める弘前市と協働し、青森を愛する気持ちを礎として新しい未来を切り開き、地域の産業・生活・社会システムに新たな価値を創造できる「人財」を育成することを目的としています。



学生の皆さんと志を共有しながら、取組を進めています。



学内に掲示されたポスター。大学COC (Center of Community) 事業



総合教育棟1階にあるCOC推進室。弘大は「地域を志向する大学」です。

キャリア@通信 Voice③
ゴールにたどり着くまでの道筋を発見する!

サクサシステムエンジニアリング株式会社
 技術本部 第一開発部
 いはし しんご
伊橋 真吾さん
 (平成 22 年 理工学部卒 27 歳)



プロとして仕事をするために超えるハードルがあります。

●現在どのようなお仕事をされているか教えてください。

一言での説明が難しいんですが、いわゆるSE (システムエンジニア)の仕事です。電話機の中のプログラムをつくっています。弊社は電話関連の仕事が多いのですが、“このボタンを押せばこんな動作になる”というような内容です。開発自体はパソコンに向かってプログラムや資料を作りますが、実験室もあって実際に電話機が何十台も並んでいて、動かしたり、試験をしたりします。親会社のサクサ株式会社からシステムの発注を受け、要求のあった内容を実現する仕事をしています。

●学生時代からプログラムの知識があったのですか?

私は数学の勉強をしていたので、実はプログラムの事は一切知りませんでした。入社した後、新入社員の研修で一から学びました。しかし同期の新入社員 8 人の中で 6 人はプロ

グラムを経験していたので、私は大変でした。研修は、誰に対しても一から教えるようになっていきます。プログラム経験者も未経験者も同じ教育研修をします。プロとして仕事をするために、超えるハードルはここです!と目標があります。確かに苦労はしましたが、同期で教え合いながら研修しました。3ヶ月の研修を終えると、今度は先輩社員について教えてもらうOJT研修をします。

考えて考えて工夫して、どうやるどうやるかと悩みます。

●IT業界は忙しいというイメージがありますが、どうですか?

就職する前、私もそう思っていました。もちろん仕事には締切や納期があります。スケジュールや納期が守られている場合は当たり前ですが残業をしません。スケジュールが守られなかった分を残業で補う訳ですね。順調に行っているプロジェクトは毎日定時に帰ります。ひとつのプロジェクトでも、順調な時期があったり、遅れ

る時期があったりします。仕事を家に持ち帰ることはありません。セキュリティの関係で持ち出しはしません。

●当たり前のように使っている電話機ですが、ボタンひとつで色々な機能がありますね。

基本的には頭を使って、依頼された仕事をどうやって実現するか考えることが多いです。むしろ単純に入力するような仕事はほとんどありません。“いつも考えている”仕事です。考えて考えて工夫して、どうやるどうやるかと悩みます。どうプログラムを実現していくか、細かくひとつずつ落とし込んで作るのでひたすら考え



会社は頭脳立地法に基づく産業支援団地八戸ハイテクパーク内。素敵な環境です。

ていくしかありません。難しい仕事もありますが、ソフトウェアである以上、できないことはないと思って仕事をしています。

ゴールにたどり着くまでの道筋を発見するんです!

●仕事をして大変なこと、楽しかったことは、どのような時ですか?

新人の時はいかに与えられた仕事をこなすか、納期を守ることしか意識できなかったのですが、徐々に、より品質の良いものを、どう出せるかを考えるので、今でも緊張しますし大変です。毎回新しいことを勉強して、新しいもの、より良いものをつくっていく仕事です。プロジェクトによって毎回毎回大変ですけど、やっぱり楽しいとか嬉しいとか思う時って、何か月も一生懸命頑張ってきて、「はじめて動いた!」時に苦労した分嬉しいんだと思います。

●悩んだり考える仕事は常に勉強が大切ですね。

つくる側として「何をつくるか」分っていないと作れません。明確に目標やゴールを設定して、そこに向かって行く訳です。そこまでのアプローチはつくる人によって様々で、人によって中身は違ってきます。道筋も違います。上手い道筋を見つけ

られる人は開発の上手い人です。長い道のりになってしまったり、険しい道、簡単な道もあります。この道筋を見つけるのが「力」と言いますが、経験だと思えます。努力と知識と経験です。ゴールにたどり着くまでの道筋を発見するんです。

大学の合同企業説明会で人事の方のお話を聞きました。

●素敵な木造建屋の会社ですね。

地元で働きたいと思い、大学の合同企業説明会で人事の方の話を聞きました。初めて会社を訪問した時は、木造のコテージ調の建屋でびっくりしました。友人に「うちの会社はログハウスなんだ」と言うと驚かれます。実は空調が効きずらく夏はちょっと暑くて冬は隙間風で少し寒いんですが…。自然のある近所を散歩する社員さんもいます。金曜日はカジュアルデーで私服出社でも構いません。勤務もフレックス制なので10時から16時のコアタイム (決まって勤務する時間帯) の他、自分で出勤時間を選べます。少しでもリラックスして仕事ができるように配慮されています。

“何か”に熱中してもらいたいです。何でも良いですね。

●弘大生の後輩に何かメッセージをお願いします。

大学生は自分のために使える時間が多いと思います。どんどん自分の“楽しい・好き”を見つけてやっていくことが、自分を形づくっていくと思います。どう上手く自分で時間を使うかです。色々な人と触れあって色々な経験をすると良いですね。アクティブに挑戦することが大切です。ゴールが分ると自分の足りない所や得意な所も見えてくると思います。

●本日は有り難うございました。

取材・インタビュー

松谷 和恵 (教育学部 2 年)



社内の食堂。ログハウス基調の木造建屋は八戸市の「まちの景観賞」を受賞。

キャリアカウンセラーの先生方による
就職活動“ミニ講座”

平成 27 年度の卒業生から、就職活動の日程が大きく変更「後ろ倒し」になります。3 年生 (大学院生は修士 1 年) の 3 月 1 日から企業の広報が始まります。企業の説明会やエントリーが開始される前に、しっかり事前の準備をすることが大切です。キャリアカウンセラー、キャリアコンサルタントの先生方に“ミニ講座”を企画していただき、少人数のグループで開催していただきました。



学生の受講風景。1 月～3 月にかけて、延べ 17 回のミニ講座が開催されました。



学内で開催される多人数の「就職ガイダンス」とは異なり、ミニ講座は受講者 15 人までのグループ勉強会。講師の話を聞くだけでなく、受講者の相互啓発が大切な演習型のセミナーです。



- ＜ミニ講座内容と先生の紹介＞
- ・「履歴書・面接・自己PR」中崎良次先生
 - ・「求人票の見方」
ディスカッションによる自己PRや履歴書、面接企業像把握のヒントや就職活動の質を高める など
 - ・「エントリーシートと面接」三上友子先生
 - ・「就活マナーとメイキャップ (お化粧) (女子限定)」志望動機と自己PR、面接練習、身だしなみとメイキャップ、確認講座 など
 - ・「自己PR作成の準備」穂元正明先生
 - ・「自己PR作成と面接対策」
エゴグラムを利用した長所・短所の確認
企業の求める人材像を考える など

大学主催『合同企業説明会』

大学主催の「合同企業説明会」が3月4日～5日、ホテルナクアシティ弘前で開催され、県内外212企業と多くの人事ご担当者にご参加いただきました。今年度は就職活動が「後ろ倒し」で3月から開始され、学生もこの合同企業説明会が就職活動のスタートとなりました。2月には学部別に事前ガイダンスも行われ、しっかり準備した学生が、熱心に企業の説明を聞きました。

本町キャンパスでは3月7日に131病院等を招き、医学部保健学科主催の「合同病院説明会」が開催されました。多くの学生が参加しました。



写真上：合同企業説明会の風景
写真右：人事担当者の説明を熱心に聞きます。多くの学生が参加しました。



『青森企業バス見学会』



青森県の企業をもっと良く知ろう！を目的に、五所川原地域、弘前地域、青森地域の企業見学会を3回開催しました。五所川原街づくり株式会社、五所川原市役所、東奥信用金庫、弘前航空電子株式会社、青森銀行、東京海上日動火災保険株式会社の6企業等の見学をさせていただきました。来年度は拡充して開催する予定です。

また、9月に仙台企業2社、2月に東京企業2社、北海道企業3社の見学会も開催されました。東京・北海道では地域で活躍する弘大卒業生の方々と学生との懇談会も行われOB・OGの先輩たちから助言もいただきました。



写真上：東奥信用金庫 店舗フロアでの説明。
写真右：普段は見られない信用金庫ネットワークの業務。



Hirosaki University
Student Career Center

編集後記



弘大『キャリア@通信』の読者は学生です。社会で活躍している弘大卒業生のお話を聞くことで職業観やキャリア意識を培ってください。大学教職員のほか、皆さんを多くの先輩達がサポートしてくれます。

左側に描かれている赤いりんごとハートはセンターのマークです。りんごは青森県を、赤いハートは学生の皆さんや企業の方々に応対する教職員の精神を象徴しています。我々も皆さんと同じ思いを持って就職活動を支援し、皆さんひとり一人、りんごのように大きく実ってほしいとの願いも込められています。



表紙の写真

日本に3台、昨年1月まで現役で使われていた農生バス（日野RE-101型）昭和55年式。金木や藤崎の実習農場へ学生を送迎していました。ナンバーは「青森」ではなく、もちろん「青」。今回取材した農生卒の先輩も乗っていました。今まで本当に多くの弘大生の送迎、ありがとうございました。



今野 琢也（人文学部2年）

自分の知らない世界に気づけました。この経験をこれから活かしていきたいです。



松谷 和恵（教育学部2年）

教育関係以外の仕事を見ることができて、とても新鮮でした。また先輩の話聞いてみたいです。

弘大『キャリア@通信』vol.006 平成27年3月30日
編集・発行//弘前大学学生就職支援センター
取材学生スタッフ//今野琢也、松谷和恵
撮影//弘前大学学生就職支援センター

